

幼児教育研修（年齢別担任研修3歳児 第1回）

受講者数 90名

日時 令和4年6月7日（火） 15:00～17:00

場所 竹の塚地域学習センター

講師 東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 准教授 田中 浩司 氏

【内 容】 ～子どもの発達と保育者の関わりについて～

3歳児は、自信の高まりがピークの時代。先を見通す力がついてくる一方で、上手くいかないかもしれないという不安や、恐れが生まれます。これは立派な成長です。保育者は、子どもの面白がっていることやこだわりなど子どもの世界を推測し、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、自我を大切にしていきます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・ 3歳児は、自信の高まりがピークの時代。見通す力がつくことで、不安や恐れが生まれることは立派な成長であることだと学んだ。できていたことができなくなると、「できるよ。やってみよう。」と子ども任せの声掛けをしていた。また、保護者が急いでいる時など、「なんでできないの？」という声をよく聞く。そんな時、今回学んだことを伝えながら、保護者と共に子どもの成長を喜べるようにしていきたいと思う。
- ・ 先を見通す力がついてくることから、無鉄砲な行動が収まる一方で、上手くいかないかもという恐れから消極的になることもあるが、これも成長だということがよく理解できた。鬼ごっこの例で、捕まると怒ったり泣いたりする、捕まりたくないからずっと鬼になる姿は、自我の育ちによるものだと理解し、どのようにしたらその子が楽しさを味わえるのかを考えていきたいと思う。
- ・ 絵本の中には、子どもが使わない言葉が入っている。言葉の面白さは曖昧に使っている言葉の意味を深める好奇心の原動力であることを学んだ。図鑑や迷路の本に興味をもつ子が多いが、絵本に親しみ楽しむ中で、言葉って何だろう？と深めるきっかけを作っていきたいと思う。
- ・ どうして怒っているのか、泣いているのか、子どもの目線に立って子どもの世界を推測することが大切で、そのことにより言葉かけの内容が変わってくる。決まりやルールを教えるのではなく、子どもと一緒に考えてルールを発見していきたい。